

教職に就くまで

山中 嘉人

1. 教職を志すまで

高校、大学時代となんとなく教職に対するあこがれがあり、教職課程を履修し中高の社会科の免許を取得した私は、教育実習で激務を経験したこともあり、一旦教職の道を閉ざした。2016年、修士課程を卒業し、それ以外に特にやりたいことも無かった私は大阪府の一般企業に就職した。その会社で勤務している中でこの仕事をずっと続けることに対して疑問を持ち、どうせなら教員になろうと思い退職。その後故郷へ戻った後、とりあえず来年から教職にと思い、ある自治体の臨時職員として年度末まで勤務した。

2. 1回目の採用試験

私の自治体は、教員採用試験が6月に行われる。高校では日本史や政治・経済を履修していなかった私は圧倒的に他の受験者に対して不利であった。加えて、4月からの2カ月間で教員をしながら試験勉強をすることは不可能に近いと判断し、試験日までの2カ月間は勉強に徹する事に決めた。

まず、高校時代の日本史・世界史・地理等の教科書を探し出し、読み直すことにした。それに平行して、私の自治体に即した教職教養の参考書を買ひ、ひたすら教職教養について勉強した。当時、朝起きて午前中は教職教養を勉強し、午後から各教科の教科書を読みなおし、ノートにまとめ上げる作業を繰り返した。特に教職教養や日本史の知識はさっぱりだったので重点的に勉強をした。そのような生活が2カ月間続き私は一回目の教員採用試験に中学校社会科で臨んだ。結果は不合格。元々社会は倍率が高く、一回で受かるとは考えていなかったが悔しかった事を覚えている。

3. 講師時代

その後臨時教員の願書を提出し、ご縁があり9月から中学校社会科の講師として勤務することになった。その学校は全校生徒が6人のとても小さな学校だった。初めての勤務校がこの学校だった事は私にとって大きなプラスの経験になった。というのも、生徒数が少ないという事は、配置される教員の数も少なくなる。私は初めてながら図書、研究、音楽主任という公務分掌を任せられ、教員として授業以外の公務を経験する事ができ、教員の仕事を大いに経験する事ができた。また、生徒たちは社会科に対する苦手意識が大きかったが、生徒理解を進め、出来るだけ興味を持ってもらうように授業を工夫する方法を学ぶことができた。その結果、生徒も当初より教科に対する苦手意識が薄れ、県主催の学力テストでは優秀な成績を取めることができた。

勤務期間は9月から12月までの短いものだったが、私はこの学校で得たものは大きかつ

たように感じる。

続いて、2校目の配属が決まった。その学校は少し特殊で小中一貫校であった。私は音楽の先生の産休代替で配属されたのだが音楽を教えることは出来ない。そこで小学校の先生に小学生の音楽を変わってもらい、中学の音楽は他校から来てもらう形になった。私はそこで小学校の先生が音楽を担当する際の穴埋めとして抜ける小6の社会科の担当をする事になった。小学生の社会科を教えることは全く頭になかったので少々不安が大きかった事を記憶している。小学生と中学生の授業では、授業内で使う言葉も優しいものにする必要があるし、興味を持たせるように映像資料を多く活用したりして工夫をしなければならない。そういう点では教材研究にとっても時間を割いた勤務校であった。加えて中学校では1年団の副担任や国語、小学生の体育のT2（補助教員）として、内容の濃い学校だったように思える。また、その学校では授業が無い時間帯では採用試験の勉強をしてもいいと、優しいお言葉をかけて頂いたのでそこで十分に勉強をすることができたと思う。

3校目の配属は中規模の学校であった。紙面の都合上ここでの経験は多少割愛して述べる事にするが、私にとっては非常に重要な経験を積める学校であった。まず、特別支援学級の担任を経験できたこと、非常に優秀な同教科の先輩に巡り合えた事、部活動での新しい経験や、気にかけてくれる先輩方が多かったという事である。この勤務校に在籍している時に、2回目の採用試験を受験する事になる。

4. 2回目の採用試験

2回目の採用試験前、最後の確認をして受験に臨んだ。緊張感で一杯だったが、それまでの勉強したことを信じて臨んだ。結果は合格。まさか本当に一次試験を受かるとは思わなかった。上述にもあるように、私が受験した自治体の中学校社会科の倍率は高くまさかの出来事に事実なのかよく分からなかった事を記憶している。

その後待ち受けるのは二次試験。まず、指導案作成があって、別日に模擬授業と面接が行われる。指導案作成は出題範囲も不明なので気軽に臨んだ。そこで書ききった指導案を持ち帰り、先輩の教員と相談して指導案を書きなおい模擬授業を見て貰い訂正した。またその中で2次面接の練習もしてもらい、その事が後に大いに役に立った。その点で指導して頂いた先生方には感謝をしてもしきれない。

その後、本番の模擬授業と面接に臨んだ。模擬授業では自分が想定していた授業を行う事ができたが、面接では言葉に詰まる場面も多かったが、十分思いを伝える事ができたように思う。

二次試験の結果は合格。今この文章を書いている時点で成績開示は出来ないのですが、どのくらいの点数での合格かは分からないがとにかく合格だった。

5. おわりに

ここまで、拙い文章で述べてきたようにこれが私の合格体験記である。この原稿を書いている段階で私は3校目の講師という立場である。

企業に勤めている時は22時に退勤した時は本当にストレスでしかなかった。今の勤務校

でも成績処理をしたり、明日の授業準備、その他雑務をこなしている時には22時、23時に退勤し、帰宅時間が遅くなる時もある。しかし、全く苦に感じることはない。

これから教職を志す、またなんとなく教職に就こうかなと思う皆様へ。教職はしんどいことも多いけれども、楽しい事も多い職業です。教育実習で決めずに、一回講師を経験した後に決めてみてもいいのではないのでしょうか。この記事を読んできた方と一緒に仕事ができる日を夢見ています。